

# 1. 関西グリーン研究所の生い立ち

二十世紀半ばから、欧米では芝生の調査・研究が盛んに行われていましたが、我が国では余力を入れずに数名の研究者がいたに過ぎません。このような状況下で、関西のグリーンキーパーをはじめとするゴルフ場関係者は、早くから芝生の科学的管理の重要性を認識していて、関西ゴルフ連盟(KGU)の理事会でも真剣に取り組むことになりました。特に、(社)宝塚ゴルフ倶楽部の厚意により日クラブハウス<sup>①</sup>と1000坪の用地が提供され、昭和35(1960)年、KGUの一機構として我が国最初の芝生の研究所が設立されました<sup>②</sup>。

この設立時には、当時の久保 貞大阪府立大学助教授による指導で、気候・風土にあった芝地土壌とそこに発生する病害を最重要課題として調査・研究を重ね、科学的に裏付けられた芝生の管理技術を推進してきました。こうして、その後の我が国における芝地維持・管理技術の向上に大きく貢献したことは周知の事実であります。

また、大阪万博(昭和45(1970)年)会場の緑地造成に貢献し、公害対策として緑化が推進されて公益事業への積極的な姿勢と組織を確立するため、法人化に向けKGU加盟倶楽部の賛同と資金援助を受け、さらに、宝塚ゴルフ倶楽部から新しい用地の提供もあり、昭和49(1974)年2月25日に大阪府より財団法人の設立が認可されました。昭和50(1975)年には現在の建物<sup>③</sup>が竣工し、新しい時代に向けての活動が開始されました。

しかし、昭和63(1988)年からゴルフ場での農薬使用問題、平成(1990年代)には日本経済にかげりが見え、その上、阪神淡路大震災(平成7(1995)年)は関西のゴルフ場に大きな打撃を与えました。このような不況の波により、コース管理には効率化が求められ、ベントワングリーン化の流れと共にゴルフ場も多様化し、現在に至っています。

平成22(2010)年には、100余名の関係者が出席して研究所設立50周年の記念式典が挙行され、50年史<sup>④</sup>が発行されました。さらに、平成25(2013)年7月1日付けで公益法人制度改革に則り、一般財団法人<sup>⑤</sup>の認可を大阪府から受け、新しい法人活動をスタートさせました。

研究員は、多様な専門分野で地道な研鑽を積み、芝生の総合的な研究・教育・普及機関(シンクタンク)として発展すべく、一般社団法人関西ゴルフ連盟やゴルフ場関連業界の理解と協力を得ながら社会貢献できるよう鋭意努力しております。

## 2. 設立の目的と事業概要

芝草などによる緑化推進、その他芝地土壌とそこに発生する病害虫・雑草や農薬などの調査・研究を行い、その理論と技術の進歩をはかり、広く一般の緑地環境改善に寄与することを目的として次の事業を行っています。

- (1)芝草を中心とする緑化推進に関する調査・研究
- (2)緑化推進に関する研究会、講演会、展示会の開催ならびに研究発表とその資料の発刊
- (3)緑地環境の維持・改善のための土壌、病害虫、雑草、農薬等の調査・実験
- (4)緑地環境の管理ならびに設計・指導
- (5)その他、研究所の目的達成のために必要な事業